

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

合同会社福祉経営情報サービス

②事業者情報

名称：八潮かえで保育園	種別： 保育所
代表者氏名：石井良子	定員(利用人数)： 85 名
所在地：〒340-0822 埼玉県八潮市大瀬2-1-8	TEL：048-994-3007

③評価実施期間

令和 4年 11月 1日(契約日)～令和 5年 2月28日(評価結果確定日)

④総評

◇特に評価の高い点

○年齢ごとの発達に応じた環境を整備し、子ども同士の関わりの中で子どもがのびのびと過ごせている

各保育室には、ままごとや絵本、積み木、机上遊びのコーナーや、ごっこ遊びや身体を動かして遊べるスペース、静かに集中できる場所等がある。玩具は発達に応じた手作り玩具なども豊富に用意されており、子どもが自分の興味のある玩具や好きなことで十分に遊べる環境が整っている。園庭には築山や砂場があり、よじ登ったり、泥んこ遊びをしたり、穴を掘る、寝転がる等、好きな遊びを思う存分楽しめる遊びの環境がある。また、和太鼓や山登りなど、貴重な体験となる特徴的な取り組みも実施されている。

生活面では、0, 1, 2歳児は担当制で保育し、特定の職員が子どもと関わる中で信頼関係を築くことを大切にしている。生活習慣の援助では職員が声を掛けて丁寧に関わり、子どもの意欲を大切に支援がされている。幼児クラスは2つのグループに分かれて異年齢保育をおこなっており、当番活動や3年間の中で年少児と年長児、年中児同士のペアをつくり、その関係性の中でさまざまな経験ができる活動なども取り入れている。園庭遊びでは、0歳～5歳児まで全クラスが同じ時間帯に園庭で過ごす等、乳児と幼児の関わりもあり、子ども同士が関わりがのびのびと遊び、共に生活する中で子どもの主体性が育まれている。

○園庭の畑で土に触れ野菜を育てるなど、充実した食育活動が実施されている

各年齢に応じた食育活動・調理保育を実施している。園庭の畑では、子どもたちが野菜を栽培し収穫している。かぼちゃや大根を育て、冬の時期は育てた大根を干して沢庵を作っており、できた沢庵は給食で提供し皆で食べている。調理保育では梅ジュースづくりや米研ぎ、出汁の味を知ることやみそ汁づくり、夏祭りの冷やしキュウリなどのほか、子どもが三色野菜や思い出を振り返り自分で献立を考える一汁一菜の取り組みなども実施している。食材当てゲームなど楽しい企画も取り入れて進めており、毎日の給食で提供される食材に触れることから始め、育て、収穫して食べるまでの過程を知る貴重な体験ができています。乳児クラスが野菜をちぎっている様子など、食育の様子は園の入り口に掲示して保護者にも豊かな食育活動の様子が伝えられている。

○毎年保育のテーマを決めて職員が学び、生活や遊びなど、保育の質の向上に取り組んでいる

毎年保育実施面について年間のテーマを決めて保育の質の向上に取り組んでいる。今年度のテーマは「主体性」であり、遊びや介助、着替えなどの場面を動画で確認し、大人の関わりと子どもの気持ちを分析している。食事については栄養士も入り話し合い、共有と総括がされている。また、関係機関が開催する合同研修での実践報告の発表に積極的に取り組んでおり、職員個々、組織全体のスキルアップにつながる取り組みとなっている。日々の保育を実践する中で、各職員が子どもの姿について、関心があることや課題を話し合い、解決や質の向上につながる一連の取り組みが継続的に実施されており、実施にあたっては子どもだけでなく大人の「主体性」も重視して推進されている。

◇特にコメントを要する点

○快適性を高め、より一層保育がしやすくなるような環境の整備に取り組むことを勧めたい

自由遊びの時間を十分に設けており、園庭では子どもたちが元気に遊び、また、木材をふんだんに取り入れ温もりが感じられる園舎内では保育室内の各コーナーでさまざまな遊びが展開されている。それゆえにどうしても清掃や整理・整頓が間に合わない箇所もあるように見受けられる。汚れやすい場所の清掃の工夫や生活動線上の設備についての点検と必要な修理、遊んだ後の玩具や保管している遊具の整頓など、快適性を高め、より一層保育がしやすくなるような環境の整備を期待したい。

○職員の育成と成長のための仕組みづくりを継続し、人材育成の基盤が整備される事を期待したい

法人内研修のほか外部研修における実践報告や保育テーマに沿った園内での学習などを通して保育力を高めている。人材育成については、調査時点では階層を役職別に細分化して研修等育成のための手段を明記した「キャリア開発マップ」を作成し、人材育成の強化に取り組んでいる。育成目標と研修体系の整理などにより、体系化して総合的人事制度が確立されることを期待したい。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

お忙しいところ、保護者の皆さまにはアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

八潮かえで保育園は開園10年目を迎えています。

この10年間で、子どもについてはもちろん、保育のこと、環境のこと、職員でたくさん学習し、たくさん話してきました。

なぜ、八潮かえで保育園は担当制をしているのか、異年齢保育なのか、どろんこ遊びは子どもにとってどんな影響があるのか、子どもの主体性ってなんなのか？子どもに寄り添うってどういうことなの？一つひとつ確認しながら10年間歩んできました。

自分より小さいお友だちが泣いている姿や靴が履けずに困っている姿を見つけると、すぐに駆け寄って助けてあげたり、優しく声を掛けたり、鼻水を拭いてあげたりする姿を目にすると、担当制でしっかり大人との信頼関係の中で生まれ、異年齢保育で優しくされた経験が身になっているのだと実感します。

八潮かえで保育園でのどろんこ遊びや自然と向き合った経験が子どもたちの心の成長になっていたら嬉しいです。

今回の第三者評価の結果をもとに、園の課題に対し、職員で検討し改善すべきところは向き合っていきたいと思います。

今後も八潮かえで保育園は子ども一人ひとりに寄り添い、子どもを真ん中に保護者の皆さまと職員と一緒に成長していける保育園でありたいと思います。

今回は、法人で取り組んだ第三者評価ですが、報告を全施設で共有し、法人として課題にも向き合っていきたいと思います。

福祉経営情報サービスの皆さま、ありがとうございました。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり